

平成 22 年 4 月 1 日現在

研究種目：基盤研究 (B)
研究期間：2007～2010
課題番号：19401029
研究課題名 (和文) 中国新疆のウルムチ・トゥルファン両博物館所蔵非漢文古文書の研究

研究課題名 (英文) Study on the Old Manuscripts Written in Scripts other than Chinese Preserved in the Turfan Museum and Urumchi Museum, Xinjiang, China.

研究代表者

梅村 坦 (UMEMURA HIROSHI)
中央大学・総合政策学部・教授
研究者番号：90124289

研究代表者の専門分野：中央ユーラシア史

科研費の分科・細目：人文学B・東洋史

キーワード：国際情報交換・トゥルファン・ウイグル・古文書学・言語学・仏教学

1. 研究計画の概要

新疆ウイグル自治区博物館およびトゥルファン博物館が所蔵する各種古文書のうち、非漢文文献を整理し、確実な保存と研究の基盤を構築する。とりわけ後者には1980年にベゼクリク千仏洞から発見されたものの、研究の手がつけられていないもの約460点が保管されているので、これを中心的な対象とする。

(1) この文書群の初歩的なデータ整理・カタログ化を、古文書学的手法をとりつつ、保管上安全な環境のもとでおこなう。

(2) 文字資料としての価値を確定するために、読解と釈文の作成をおこない、言語学的・宗教学的・歴史学的研究をすすめ、歴史・文化の再構成を可能にする総合的な研究に発展させる。

(3) 世界各地保存の関連諸文書との比較研究をすすめる。また、博物館内で現在行方不明のものを、この機会に共同で探索することも付随的な目的としたい。

これらの作業、研究を通じて、非漢文出土古文書総合カタログへの一里塚を築くことを最終目的とする。

2. 研究の進捗状況

(1) 当初計画にもとづいて、まずトゥルファン博物館所蔵の現物に即した古文書学的基礎データを採取し、試験的に古文書デジタルデータの一部を収集した。それらのデータすべてを整理して、同一文書群の中の漢文古文書のみについて公刊されたばかりの『吐魯番伯孜克里克石窟出土漢文佛教典籍』(上・下)との対照もおこない、研究対象古文書一

覧のための枠組み「ベゼクリク出土非漢文文書目録」を作成した。上記 1-(1)の具体化である。

(2) 本科研グループ(日本)、新疆とくにトゥルファン文物局・博物館(中国)、ベルリン科学アカデミーのトゥルファン研究班(ドイツ)との間で交渉を重ねた結果、最終的には2008年に研究推進協力のための合意書を締結した。次いで「ベゼクリク出土非漢文文書目録」を補正、整備をしながら、古文書のデジタルデータのほぼすべてを、映像を含めて、研究分担者・協力者が自由に利用できるよう連絡システムを構築し、上記 1-(1)をほぼ終了し、1-(2)の段階に入った。

(3) 個々の古文書について、当該各国研究者の研究分担を定めながら、現在 1-(2)の段階を鋭意推進中である。対象となる古文書についての研究成果公表は、最初に中国の出版物に中国語で行う合意を形成しているため、まだこの古文書に直接かかわる論文数は少ないが、1-(3)も個別研究者ごとに行われている。但し、ウルムチにおける社会的な事件発生に伴い、2009年7月以後半年以上にわたって新疆とのデジタル通信・電話が遮断された結果、連絡遅滞がおこった。しかし2010年3月に直接トゥルファン訪問を果たし、通信も復旧しつつあり、現状では日・中・独三国の研究連絡もスムーズに行われるようになって、画像資料の追加、上記「目録」の整備も進められるようになった。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

日本、中国、ドイツの相互連絡にもとづく

古文献研究の態勢運営と研究自体はほぼ順調に推移している。ただ、新疆と北京、新疆と日本・ドイツとの通信・往来が半年ほど不可能であったことが、連携の若干の停滞をまねいたかと思われる。

4. 今後の研究の推進方策

対象古文献にたいする研究は、デジタル画像にもとづいて進めているが、実物に直接あたる必要に応じてトゥルファン博物館を訪れる機会を設ける。上述した若干の連携停滞により、ウルムチ博物館の古文献にたいする研究を極力減らして、トゥルファン博物館所蔵文書に特化して集中したい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 28 件)

① 庄垣内正弘 「ロシア所蔵のウイグル文『入阿毘達磨論』注釈書断片」 *Contribution to the Studies of Eurasian Languages*, 15, 2009, pp. 81-118, 査読有。

② MATSUI Dai, “Recent Situation and Research Trends of Old Uigur Studies”, *Asian Research Trends (New Series)*, 4, 2009, pp. 37-59, 査読無。

③ YOSHIDA Yutaka, “Visa’ Sura’s corpse discovered?”, *Bulletin of the Asia Institute*, 19, 2009, pp. 237-242, 査読有。

[学会発表] (計 20 件)

① 三友健容 「『婆沙論』成立の諸問題」、日本宗教学会、2009年9月12日、京都大学。

[図書] (計 9 件)

① 梅村坦 『宋と中央ユーラシア』中央公論新社、2008年、pp. 277-499, 514-518, 542-548.